

# 令和6年 第14回全員協議会会議録

令和6年7月9日 議員控室

## ○事 件

町長報告事項

(1) 特定制作事業について（政策推進課）

## ○出席議員（14名）

議長 千葉 隆 君  
赤井 睦美 君  
横田 喜世志 君  
関口 正博 君  
倉地 清子 君  
牧野 仁 君  
斎藤 實 君

副議長 黒島 竹満 君  
佐藤 智子 君  
大久保 建一 君  
宮本 雅晴 君  
三澤 公雄 君  
安藤 辰行 君  
能登谷 正人 君

## ○欠席議員（0名）

## ○出席説明員（8名）

町長 岩村 克詔 君  
総務課長 竹内 友身 君  
政策推進課長 川口 拓也 君  
政策推進課長補佐 宮下 洋平 君

副町長 成田 耕治 君  
財務課長 川崎 芳則 君  
政策推進課参事 戸田 淳 君  
政策推進係長 右門 真治 君

## ○出席事務局職員

事務局長 野口 義人 君  
庶務係長 菊地 恵梨花 君

事務局次長 成田 真介 君

[開会 午前 10時22分]

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） それでは若干時間が早いようですけれども、皆さんお集まりいただいておりますので、全員協議会を開催してまいりたいと存じます。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） 今回は特定政策事業について、政策推進課からご報告がございますので、よろしくお願いいたします。

早速、議題のほうに入ってください。よろしくお願いいたします。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 臨時会終了後のお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。

本日は特定政策事業として進めております、ウイスキー蒸留所誘致事業の状況の報告とともに今後の本事業推進にあたっての意見を伺いたくしてお集まりいただきました。

皆様には本年2月ウイスキー蒸留所誘致事業の総合計画での位置付けや、町へもたらす効果、協力、連携企業などの概要を説明させていただきました。

そしてまずは特定政策調査検討業務として参加いただいた880万円を使わせていただき、判断材料となります収支予測や町への有益性を導き出すことについて、ご承諾いただいたところでございます。

その後、すぐに調査検討業務に取り掛かかりましたが、ウイスキー製造は非常に専門性の高い業態であることから、連携企業である日本テレビや小学館などの協力も得ながら、コンサルティング会社10社の中からプロポーサル方式等により優秀な1社を選定し、業務委託させていただいたところでございます。

そしてこのたび、本調査検討業務が完了いたしましたので、その内容を報告させていただくのと、各社、このコンサル結果を取締役会等に諮り、ウイスキー蒸留場誘致事業への参加・出資の判断を7月まで決定し、報告することとなっておりますので、八雲町としても、この全員協議会で皆様の意見を伺い、判断させていただきたいと考えております。

町としては、新たな産業や新幹線駅開業を見据えた観光資源の創出、また、町のブランド力向上を図っていくためにも、ネームバリューの高い企業との連携・共同によるウイスキー製造という息の長い事業を展開していけることは非常にありがたいことでもあり、今このタイミングを今逃しますと、このようなプロジェクトの実現は難しいと考えておりますので、どうか本事業の推進にご理解をお願いいたします。

それでは、お手元の資料がこのたび完了した調査検討業務の結果を記載したものとなりますので、その内容について説明させます。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 議長、政策推進課長補佐。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長補佐。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） よろしくお願ひいたします。

ウイスキー蒸留所誘致事業に関する事業計画書につきまして、ご説明いたします。別刷り横向きの資料をご覧願ひます。また画面にも同じものを表示しておりますので、見やすいほうでご覧願ひたいと思います。

表紙をめくり2ページ目をお願いいたします。

本事業は、八雲町の観光名所であるハーベスター八雲の周辺に、ウイスキー蒸留所を建設し、ウイスキーの製造から販売までを行うとともに、蒸留所の見学や併設するバー・グッズショップでの販売等を展開するものであります。

3ページ目をお願いいたします。

近年の国産ウイスキーの状況ですが、直近10年で1.5倍程度、生産量が増加しており、成長要因としては、低カロリーでプリン体がほとんど含まれないなど、健康志向の高まりやハイボールを中心に女性や若者が手に取りやすいブランディングが成功したこと、そしてジャパニーズウイスキーを求める外国人が増加し、輸出が拡大したことなどが上げられます。これらの要因からウイスキー市場は、今後も成長が続くと予想され、事業者は拡大傾向にあります。成熟した市場とはいえ、品質差異も大きいため、本格的な製造による製品の差別化等により、八雲町で事業を展開したとしても十分に勝機があるものと考えております。

4ページ目になりますが、では、なぜ八雲町でクラフトウイスキー事業を始めるのかという点ですが、八雲町には多くの魅力と可能性があると考えます。太平洋と日本海という二つの海に囲まれた豊かな自然環境があり、噴火湾パノラマパーク周辺の観光資源も豊富です。さらに、北海道新幹線の札幌延伸や二海サーモン、木彫り熊などによる地域ブランドの向上など、まちおこしの機運も高まっています。そして、ウイスキーの原材料の活用においても、道南地域の自治体と連携して取り組むことができます。これらの要素が、本事業への参画を検討している企業の目に留まったことが、取り組みを進めようとした理由でもあります。

また、5ページ目になりますが、蒸留所の建設予定地である噴火湾パノラマパーク・ハーベスター八雲周辺は、噴火湾を望む眺望や美しい白樺並木、ハーベスター八雲が育んできた食文化などがあり、それらを訪れる人々に象徴されるように、自然と文化と人々が交わる場所であり、蒸留所を整備する場所として適地であると考えています。

6ページをお開き願ひます。次に、出資候補企業や八雲町が本事業を行う意義と体制であります。

本ページには、本ウイスキー事業への出資候補企業を掲載しております。出資候補企業は、上から、株式会社小学館集英社プロダクション、日本テレビホールディングスの連結子会社である株式会社日本テレビサービス、株式会社デルソーレ、そして札幌テレビ放送株式会社の計4社であります。これらの企業はそれぞれ異なる業界やメディアで活躍し、日本国内外で幅広い影響力を持っております。

7ページになりますが、出資候補各社の主な役割であります。出資候補各社は、自社において独自の販路を有していることに加え、本業を通じて蓄積されたそれぞれの得意とするところや関係各所とのコネクションを有しており、各社が協力することにより大きな相乗効果が期待できると考えております。また、出資比率につきましては、暫定案ではありますが、資本金を1億円と想定し、右側の図のとおり、各社ほぼ均等の出資額とするよう検討しております。

8 ページをお開き願います。出資候補各社が取り組む意義ではありますが、出資候補企業各社の持つ利点・長所を活かしたウイスキー製造販売を通じて、各社と八雲町の中長期的な企業価値・魅力を達成できると考えております。

具体的な4つの意義としては、地方創生では、観光資源や雇用の場として町全体をアピールすること、小売事業の価値向上は、各社の得意とする分野を活かし、ブランド力の向上を図ること、海外戦略では、ウイスキーの製造販売により八雲町や各社の知名度を広げること、SDGsによる企業価値向上は、ウイスキー製造時に発生する廃棄物を家畜の飼料やバイオマスエネルギーとして再利用しSDGsの達成を図ることを掲げております。

9 ページをお開き願います。八雲町が本事業に取り組む意義につきまして、八雲町が出資候補各社と本事業を展開することにより、ウイスキー製造販売という新たな産業の創出にとどまらず、メディアのプロモーション力や拡散力を組み合わせることで、多岐にわたる効果が期待されます。

具体的な6つの意義としては、地域ブランド力の向上では、大手メディアと組むことで八雲町の活動や取り組みを広く周知することができ、知名度やブランド価値の向上が期待できます。

観光・物産の魅力促進は、テレビ番組や出版物を通じて町が紹介されることで、観光客の誘致が期待できます。

経済効果の創出では、メディアを活用したプロモーション活動により、地域産業や商業が活発化し、地域経済が活性化され、地元企業の売上向上や新たな雇用の創出が期待されます。住民の誇りと連帯感の醸成では、地域の魅力が全国に発信されることで、町民が地域に誇りを持つようになり、地域コミュニティの連帯感が強まることが期待できます。文化の発信と保存では、メディアを通じて、木彫り熊など地域固有の文化や伝統を発信することで、町内外からの関心が集まり地域文化の発展につながります。地域農業の活性化では作物の多様化が進み、農地の利用効率の向上が期待されます。

次に新会社の体制案であります。10 ページをお開き願います。

新会社は、資料のイメージ図のとおり想定しております。

製造部門、営業・マーケティング部門、総務・経理部門などの主要機能を新会社に置き、出資候補各社には非常勤取締役を介した経営の推進と各部門における各社の得意とすることを活用した支援というかたちでの関与を想定しております。

経営や製造など、中心的な役割を担う方2名が、日本テレビ放送網から出向される予定となっております。お二人は本事業の検討段階から中心的な役割を担っていただいております。ウイスキーの製造や販売経験はなく、生粋のテレビ業界人ではありますが、ウイスキーに関するあらゆる知識を熟知しており、信頼のおける方々であります。

製造長や製造担当、樽を管理するカスクマン、営業・マーケティングや経理を担当する方は、新規採用をする予定となっております。他ウイスキー蒸留所での製造経験者や未経験者も含め町内外から広く募集をすることとしております。

また、設立初期段階の製造体制につきましては、国内のウイスキー蒸留所で製造を担当した経験のあるメンバー2名によるコンサルティングチームの支援を受け、製造初期における製造方法の構築とレクチャー、製造マニュアルの作成を行っていただく予定となっております。これを行うことにより、その後、製造に従事するメンバーが未経験者であっても、このレクチャーとマニュアルを

元に味と品質を担保したウイスキー製造が可能になりますが、並行して経験者のリクルーティングに関しても継続的に検討していく想定となっております。

次に 11 ページからはウイスキーの製造販売、ブランドストーリーについてご説明いたします。

本事業で目指すウイスキーは、二つの海から生まれる唯一無二のジャパニーズウイスキーとしております。

日本で唯一、太平洋と日本海、二つの海を持つ町である八雲町の最大の特徴を生かし、八雲地域では太平洋に面した丘の上、熊石地域は厳しい海風が当たる海辺でウイスキーを熟成し、2つの原酒により八雲町でしか実現できない唯一無二のジャパニーズウイスキーを生み出すことを目指します。

また、12 ページでは、持続可能な取り組みとして、大麦の搾りかすや蒸留廃液を家畜の餌やバイオマス燃料に再利用するなど、環境に配慮した取り組みも行っていく計画となっております。

13 ページをお開き願います。本蒸留所で製造されるウイスキー製品の概要であります。

製品の価格につきましては、メインとなる 700ml ボトル 3 年熟成で 9,900 円、5 年熟成、10 年熟成、その他製品として 200ml の小瓶やコラボ品、缶入り飲料といったラインナップで販売していく予定となっております。

本蒸留所で製造されるメインの製品は、特にウイスキーの購買意欲の高いいわゆる、コア層の方をターゲットとしていますが、準コア層を取り組むべく、缶入りハイボールや漫画・アニメのラベルを貼ったコラボ品による認知獲得を図ることで、購入ハードルの低減も行いたいと考えております。

14 ページになりますが、この表では、他の主要クラフトウイスキーとの比較となっております。

価格につきましては、700ml 3 年熟成で 9,900 円としていますが、他の蒸留所の同等品と比較しても決して高くない価格帯で販売し、八雲町ならではの二つの熟成環境の味・文化の融和を楽しんでいただきたいということを打ち出し、併せてほかにはないメディアのプロモーション力の高さを生かして差別化を図ります。

15 ページをお願いします。

販路別の目標販売本数になりますが、各販路における他社商品の取り扱い実績などから試算した数字になりますが、国内においては 7 万本程度、海外においては 3 から 4 万本程度の販売が可能と考えており、年間 11 万本の販売を目指す計画となっております。

16 ページをお願いします。

販路別の獲得アプローチ、各社の強みを活かした販路の獲得について、各社の持つメディア、販路、コネクションを最大限活用することによって、消費者、バーテンダー、小売店からの幅広い認知の獲得と他社にはない販売力が実現できると考えております。また、八雲町としては、新たなふるさと納税の返礼品としても期待されます。

17 ページをお願いします。

初めの方でご説明しました、ウイスキー製造販売と合わせ、蒸留所の見学や併設するバーやグッズショップへの来場者数についてですが、他の蒸留所の見学者を鑑みて、観光客数をベースに考えると 5 千人程度は見込めると試算しています。加えて、ハーバスター八雲やパノラマパークとの相互送客とメディアの力による集客を踏まえると 3 万人程度の来場者が見込めると想定しております。

18 ページをお開き願います。

次に販売開始までのスケジュールになります。

記載のスケジュール表は現段階のもので、若干のズレが生じておりますが、法人設立や建物の建築、設備導入を経て、早ければ2027年、令和9年を目途に製造を開始し、熟成期間を経て、2030年、令和12年頃からの販売を見込んでいます。製造開始から販売開始までの3年間に関しては、ほかの収益化施策、例えば熟成していない原酒の販売や、ウイスキーの原酒を樽単位で購入するカスクオーナーなどにより、熟成期間中もファンの醸成を図る取り組みを実施していくこととしております。

次に19ページの本事業の事業費に関する説明をいたします。

蒸留所の建設や設備導入などに必要な総事業費は、現在の試算では最大18億円を見込んでおります。その財源としては、3分の1の6億円を国の補助金、同じく3分の1 6億円を八雲町、残り6億円は新会社が金融機関から借り入れる計画としています。

町としても新たな産業の創設や新幹線駅開業を見据えた観光資源の創出、また、町のブランド力の向上を図っていくためにも、日本国内外で幅広い影響力を持つ企業との連携・共同による事業展開はチャンスととらえ、新会社に対し、建設費の一部を支援していく考えでありますので、本事業の推進にご理解をお願いいたします。

次に20ページをご覧ください。

こちらの図は、事業概要を踏まえた成長イメージであります。

2027年に蒸留を開始し、3年熟成のウイスキーが販売開始となる2030年以降は、ウイスキーの製造販売事業を軸に営業利益率50%程度で事業を拡大していく想定で、計画最終年度である2037年には10年熟成の販売も開始し、売上高19億3千万円、営業利益12億2千万円を見込んでおります。

最後の資料21ページになります。

こちらの図は、事業概要を踏まえた投資回収イメージとなります。

本事業では事業初期に設備投資や運転資本により投資が先行しますが、製造開始から10年度の2037年には投資回収完了を見込んでおります。それ以降は積み重なった原酒の在庫により、さらなる収益の獲得を想定しております。

説明は以上となりますが、別冊資料として、本事業に係る、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書のいわゆる財務三表をお配りしております。詳細については触れませんが、本事業計画の基礎となる数字で、しっかりとした根拠をもって作られておりますので申し添えます。

以上、駆け足の説明となり大変恐縮ですが、ウイスキー事業の概要説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○議長（千葉 隆君） それでは政策推進課のほうから特定政策事業についてご報告がございましたが、これについて説明を受けた事項について各議員から質疑、ご意見を伺ってまいりたいと思いますが、ございませんか。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 今回の提案で、技術者も確保して居ってことですのでごく興味深々と期待も持てるんですが、僕も以前ウイスキーの話聞いたときに、八雲にも平坦地があるのでピートの確保もこせ井的なものが発揮できるのかなと調べているんですが、先行地として厚岸でもモルトウイスキー2016年にチャレンジしていて、そこも泥炭地でピートにいろいろ複雑なものがあ

るというのを売りにしているんですね、潮風や海産物、厚岸だから牡蠣だとかも含めて非常に八雲がこれから取り組むことと今日の説明をぶつかるところがあるなと思うので、先輩がいるところに同じようなもので勝負するのはどうなのかなと思ったんですが、そういった先行地域との比較、勝負の分かれ目というか、そういう部分での考察というのはどのようにしていますか。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 議長、政策推進課長補佐。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長補佐。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 三澤議員がおっしゃりました、先行地との差別化というところではありますが、資料のですね、11 ページをお開き願いたいと思います。

先ほども説明しましたが、二つの海から産まれる唯一無二のジャパニーズウイスキーをテーマにしていますが、八雲地域では風の吹き抜ける丘の上ってことで想定しているのは、パノラマパーク周辺とハーベスター八雲の近辺に熟成庫を建設する予定となっております。

一方で熊石のほうであります、厳しい海風が当たる場所ということで、こちらが議員がおっしゃったように厚岸の環境に近いのかなと思います。厚岸は熊石地域のような厳しい海風が当たる地域での製造ってことで、ここに八雲町ではまた太平洋側の吹き抜ける丘の上ってというようなテーマ、そういうものを設けまして、この二つの海で作られるウイスキーをブレンドすることによって差別化が図られるんじゃないかと思います。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 僕、聞き漏らしたけれども、熊石でも作る。それで材料は一緒なんですね。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 議長、政策推進課長補佐。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長補佐。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 失礼しました。蒸留所はハーベスター八雲で、熟成庫については蒸留所の隣接した場所と熊石地域にも熟成庫を建設して、原料は同じものだけでも、それを蒸留所でつくりました樽を熊石に持っていて、そこで熟成ってようなことになるので、熟成環境が二つあるってところが今回の計画の中でも特徴的なところだと考えます。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） そして画面に入ってるんですけども、施設整備費 18 億円のうちわけになります。基本的に建物蒸留所はハーベスターに周辺に設置、八雲地域の熟成庫もハーベスターに設置、熊石地域にも熟成庫設置で考えています。これが一応内訳になります。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） それで提案したいんですけども、熟成過程で変化を持たせる、熟成場所。材料で差別化を図ったらどうかなと思って、最近日本でもクラフトビールでモルト先行なんです、ブレンドする相手方としてグレーンウイスキーに着目したクラフトウイスキーも出てきてるってことで、その材料がトウモロコシ、デントコーンなんです。

そうすると、八雲地域でやるウイスキーは逆に厚岸さんみたいな先輩たちとのブレンド相手としてグレーンウイスキーで農家たちも作り慣れていて、非常に作る上でもトウモロコシって手間がかからないんですね。そういったところを狙っていったほうがと思ったんですが、と思ってたんです

が、獲得した技術者さんがスコッチウイスキー、モルトに限りない愛情を感じていてグレーンのほうはあまり興味がないのか、どうなのでしょう、グレーンウイスキーのほう、僕が調べたので吉田電材さんとか新潟のほうとかすでにいくつかそういうブレンドを狙ってシングルで開発しているのが、まだ圧倒的に数が少ないんだよね、北海道にはないので、そういったところを狙ったほうが後発組として差別化でもあり先輩たちと手を組めるって意味でどうなのかな。材料も違う、そして熟成場所も違うっていうならより個性が発揮できると思いますが、その辺の検討はどうでしょうか。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 議長、政策推進課長補佐。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長補佐。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 三澤議員がおっしゃるとおり、差別化ってことでモルトウイスキーとグレーンウイスキーそれぞれ二つありますが、グレーンウイスキーはデントコーンが原料ですので八雲町でも製造がこの後もできるんですが、蒸留期が製造工程が全く違うってことで、今この会社で想定しているのが、モルトウイスキーを作る単式モデルとなっています。

ただ、八雲町にそういうデントコーンが豊富にあるってことは伝えておまして、たとえば今クラフトウイスキーで一番の先行的な蒸留所、秩父蒸留所が今苫小牧のほうにグレーンウイスキーの蒸留所を作る計画で、そういったところに八雲町の原料のデントコーンをお願いして蒸留していただいて樽に入れて帰ってきてそこで蒸留するって方法も考えられるのではないかってことで今検討をしています。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 苫小牧を選んだのは、穀物輸入港としてトップの苫小牧なのでトウモロコシ原料が豊富に入ると、それが一番のメリットで進出したんだと思うんですね。そこにローカルな進出コーンを持っていってもどうなのかと思うので、ちょっとその取り組みは八雲の個性が失われるのかなと思っていました。

確かに蒸留期が違うし、技術者がその取得、単流式をやっているのであれば技術者が違うのでとなりますが、なんか選考がいくつもある中で、同じ道を辿って行くことで計画通りのものになるのかなってちょっと不安を持ったから発言させていただきました。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 確かにクラフトウイスキーが国内にたくさん出てきているわけで、今年の2月現在におおよそクラフトウイスキー蒸留所っていうのが国内ではいろいろサイクルで若干店舗数、施設数は違いますが、だいたい115か所くらい。

その中で、実際にじゃあ味で買ってるところは全部なのかなっていったらそういうわけでもなくて、やはり質の高いそういったクラフト蒸留所は数が少ないですから、今回日本テレビの職員の方が二人、全国の蒸留所を周って相当聞き取りしながら絶対に漏らしてはならない秘密事項とかを確認しながらコネクションを広げてきたんですが、そういった各蒸留所の場長に聞くと、やはり書く蒸留所も自分たちのウイスキーを守っていくためにはジャパニーズウイスキーを守っていくためには、やはり質の高い蒸留所をもっと増やしていきたいって気持ちがあるので、是非やはり成功に繋がっていきたいってことで、いろいろコネクションも作っていますし、そういった部分のノウハウを得ながら八雲町でも質の高いウイスキー蒸留所を作っていくって方向で動いていて、いろんな方向

性があると思いますが、これから新設されるであろう会社に、いろいろ持ったウハウハの方々が終結されますので、そういった方々にご判断はお任せしていきたいと思っています。

○議員（三澤公雄君） 議長、三澤。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 今の説明を聞きますと、やっぱり質の高いものを狙っていくってそういう仲間作りができていいるなら、まだまだ希少価値のあるグレーンウイスキーの質の高いものを八雲で作ってモルトの質の高い蒸留所とブレンドして新しい商品を作るのもお互いにメリットがありますし、グレーンウイスキーでも熟成することによって価値が上がっていくって背景もありますから、そういうのであれば差別化の生き残りというなら、今説明を聞く上でもグレーンウイスキーって道をもう少し探れないのかなって改めて思いました。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（赤井睦美君） 議長、赤井。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○議員（赤井睦美君） ウイスキーのことは全く分からないし、商売のこともよく分かりませんが、八雲町が1,900万円を出資して補助金6億円を出すメリットとしては町のPR観光客、それから雇用拡大、デメリットはなんかないんですか。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 現段階です、いろいろコンサルとの話の中では現段階でウイスキー蒸留所を作っておいしいウイスキーを出来上がるってことを想定すると、全くないと思います。

○議員（赤井睦美君） メリットのみ。

○政策推進課長（川口拓也君） メリットのみです。

これがこの先確かに市場がどうなるか分からないけれども、かなり忖度なしに固く今回コンサルの結果も出していますが、現状ではデメリットは聞いてはいないです。

○議員（赤井睦美君） 議長、赤井。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○議員（赤井睦美君） こんなに立派な会社が集まったなら、あえて町は出資しなくてもこの会社で十分やっているとありますが、そこに補助金6億円を入れて出資、町が関わっていくってことに私はちょっとなぜかなって。なんか行政ってそんなにそんなに商売する必要がないと思うんですね、その辺は町民に分かりやすくどうやって行ったらいいのかなと思って。町が関わっていくことの意味みたいなのが、町のPRとか観光客の誘致とか雇用拡大とかではなくて、もっと違った面でなんかないですか。なんとなくよく分からない。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） これ先ほどメリット、デメリットありますが、やはり2030年の新幹線開業、今回開業は少しずつ話ですが、我々として一次産業の町、八雲町が農業、漁業、林業、きちんと基盤を作りながら、さらにプラスアルファできるとしたらやはり観光っていうのも一つの

機関産業になり得るってことですので、その中で今ワインだとかウイスキー等々この観光客を呼び込む一つとしてアイテムになると思います。

ただ、本当に大会社が入った中でっていうのは疑問に思うかもしれませんが、大会社の人達も全国でどこがいいだろうって探して歩いて、町としては小さい町に呼び込むための補助金って意味で考えていたテーマだと思っています。

○議員（赤井睦美君） 議長、赤井。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○議員（赤井睦美君） この6億はまるまる町の単費の出費なんですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 前のこの補助金、コンサルのときのお金のときも話しましたが、当初皆さんご存知のとおり、小学館さんがウイスキー事業をやりたいうことで進めていました。その頃は工場全額町で建てると話をしていました。

次に前回のコンサルの頼むときには町は半額って頼んでいましたが、今回は国の経済産業省の補助金が3分の1あるということで、町としてもこれは活用するべきだということで、もちろん経済産業省に行ってきた話もしたので、多分大丈夫ってことも聞いていますので、3分の1ですので、町としても3分の1が妥当だということで、半分ではなくて3分の1となったので、全体的には当初の計画より補助金は少なくなってるってご理解いただけたらなって。

○議員（赤井睦美君） 議長、赤井。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○議員（赤井睦美君） さっき、大麦も生産するような感じで説明を受けましたが、やっぱりその一次産業のさっき話されていましたが、その就農する人、高齢化と少子化ではないですが、どんどん後継者もいなくて辞めてしまいそうな状況って農業も漁業もありますよね。

そういった観光客を受け入れるための、たとえば商店だって後継者がいないって、町全体がこういうことに、これはすごく夢みたいな話で良いと思いますが、それを受け入れる町の体制、後継者育成とか人材育成とかそこが全然追いついてないと思うんですね、だから直接ウイスキーは関係ないんだけど、これをやるにあたって八雲町としては人材育成や後継者育成を今後どんな形で進めていこうって、ただこれがきたらすべてが安心なんてそんなことではなくて、やっぱり受入体制っていうのが全くできてないんじゃないかなって今のところ思うんですけども、そこの部分はどのように考えていますか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） この日本全国的に人口減少していると考えたときに、確かにいろんなことは考えられますが、どっちが先か、どっちが先行しているかってことを考えても、未来へ向かって努力をしていくってことだと思います。特に私はウイスキーだけではなくて酪農のほうも研修牧場を作りましたし、漁業もサーモンの養殖場も作って、今サーモンも順調に生産ができていて、元々この2030年の新幹線開業のためのこの観光を一つの我々の産業に使用ってことで少しやってる。ただ、人がきたからやれるのではなくて、やりながら人を募集する。

要は、このウイスキー事業も今話していた人達も八雲に定住するって話もあるし、いろんなことを募集すると私が言うのも変ですが、私もウイスキーとか酒は全く飲まないの、先ほど三澤議員が言ったモルトだとかって全然私も分かりませんが、ただ本当に好きな人はかなり特化して好きなんです。

それで、その中でよくよく話しを聞くと、これはそういう人も集まってくるなってことと、この趣にしても八雲町だけではなくて地域で作れるって可能性もあるし、このウイスキーの樽についても近隣の町村にもお願いしながら、樽の製造だとかそういうものを地元八雲町だけの活性化も含めてですが、地域にも影響が出るような、そしてまた我々として新幹線開業できる、かなりの観光だとかそういうのがありますので、どっちが先かは難しい問題ですから、同時に進めていくってことが大事だと思いますので、よろしく願いいたします。

○議員（赤井睦美君） 議長、赤井。

○議長（千葉 隆君） 赤井さん。

○議員（赤井睦美君） やっぱりやってみないと分からないですが、たとえば研修牧場の話も、研修牧場作ったら担い手が集まってきて農家さんの跡取り居ないところにも派遣ができるとか、ヘルパーさんも派遣できるって話があったけれども、結局ウクライナの問題とか円安の問題でも収益は予定より少ないし、外国人を採用しないで日本人って言ってたけれども、人が足りなくてやっぱり外国人を採用しないといけない状況で想定外は変だけれども、ウイスキーできるまでかなり先の話なので、それまでになにが起こるか分からないっていうのが産業ってそういうところだなと思って。

だから、大麦も順調に育つかよく分からないってことも、デメリットがないってところにすごく私は不安を持っていて、やっぱりなくても想定して対策って考えていかないと、結局今私が生きている間の話ではなくて、その後の話なので、あのときの議会の人たちが残してくれた製でこんな苦勞しているって言われないうに想定できないかもしれないけれども、町にとってのデメリットをちゃんと準備して対策をとっていかないと、皆さんは不安が全くないっていうかもしれないけれども、私は不安が残るなって思いはあります。

サーモンもやっていると研修牧場もやっているとっていうけれども、人が足りなくてギリギリですよ、その部分も将来的に後継者がちゃんと育ってますって言える状況でもないの、その辺もうちょっと深く考えて対応してほしいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 人の人材育成っていうのはですね、また時間がかかるんだろうと思っています。研修牧場についてもやっと今3年経って少しずつ収益も良くなってきて、やっとバイオマスの発電も動き始めました。

これについても売電機関がもうちょっと早いはずが、北電さんとかいろんな状況がありながらやっと今年から売り始めました。さらに研修も確かに外国人も入っていますが、この外国人が入ったおかげで研修牧場以外の牧場も雇用を始めながら、更に先般は研修牧場に農林高校の職員皆さんが研修にはいたりいろんなところから研修にはいたり来ていますので、人を育てる意味では少しずつただ私の夢を描いた、もっと早くっていうのは私も本当に。徐々にそれに見合ってきてると思っています。

さらに、このサーモンについても、やっとな熊石の漁業者の方々が会社を作って、後継者も含めてこれから進めようとなってきましたので、少しずつであります、形になってきていると思っています。

ウイスキー事業についても、町は出資金と補助金を出しますが、経営はですね、先ほど言ったとおり、町が経営するのではなくて民間の企業が経営しますので、そういう件でいくと民間で今は言っている方々も大手から来ていますので、そんなに厳密にいろんな検討をしますし、さらに我々も議会にきちんと説明しながら進めていく。大手は大手で今回も全般取り締まり会に入ってオッケー貰ったというところもありますし、きちんと取締役会ならびに役員会に投資しながら進めていくことですので、始まってからのリスクはですね、そちらの会社がやっていく。

ただ、くれぐれも話してみますが、これを出しましたが、まだメディアとかいろんなところに、日テレさんの小学館さんと組んでやるってことは口外だけはまだまだしないしてほしいということでお願いしたい。

これは、今我々としても議員の皆さんにある程度説明をして、また今先ほど説明した7月末までいろんな会社が取締役会やっています。その中で7月8月くらいにまた集まって、行きましょうといったときにはどこかで連携協定やメディア多いんですが発表することになるので、くれぐれもこの資料についてはばら撒かないようにしてほしいと思っていますので、よろしく願いいたします。

外部にだけ持っていかないで。特にウイスキー事業をやるっていいんですが、この書いているメンバー、特に気にしているのが日テレさんやデルソーレさんは場所を使うってことでいいんですが、日テレさん、小学館、まだまだ取締役会やっている最中ですので。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（牧野 仁君） はい。

○議長（千葉 隆君） 牧野さん。

○議員（牧野 仁君） ちょっと二点ほど教えてください。大変ウイスキーってことは僕も酒屋の息子としては大変嬉しい。ちょっと気になる点が一点、さっきデメリットの話が出ましたが、4ページの中で事業始めるあたりにちょっと抜けている部分が一点あって、よく酒造関係でも水源の対応、湧き水、水、これが一丁目一番地ってよく言われるんですが、僕も若い頃40年前を思い出してサントリーの一番大きい工場、アルプス山脈並んで、どうしてそこを選んだのかといたら（聞き取り不能）サントリーの本社は大阪ですね、関西ですが、どうしてこの場所を選んだのかって質問をしたことがあって、そしたら水、その辺のレジメに水の部分一滴も入っていませんが、その辺の調査はされているんですか。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） この度の蒸留所の誘致の場所ですが、やはり計画って部分が非常に大きいんですが、北海道の湧水は非常に魅力的な部分はあって、ちょっとあの地域一体地下水があまり現状各農家とか使っているのは井戸水とか使っていてあまり良い水じゃないと聞いているんですが、専門家に聞きますと、良い水脈のそういう水源がある可能性が十分あり得るってことを聞いていますので、これが町の承諾と議会の承諾と、あと各会社が今後7月中にオッケーが出た段階で、地下水調査も含めて井戸水を掘り上げてそういった部分の計画はしております。

ただウイスキー蒸留所は、基本的に水自体を使うものじゃないので、あくまでも冷やすためのものですから、極端に水道水でも問題がないということなので、そこら辺は水道水使っているところもたくさんあるので、ただイメージ的には地下水を使っているってイメージは非常に。

○議員（大久保建一君） 水使わないの。

○議員（三澤公雄君） 上流段階では使わない。でたものを薄めるのに。

○政策推進課長（川口拓也君） だから本当に質が悪くても冷却水に使うのは全然大丈夫。

○議長（千葉 隆君） 続いて。もう一つあるんでしょ。

○議員（牧野 仁君） はい。分かりました。

もう一点ですが、19 ページの投資の話、18 億、補助金 3 分の 2、これに対して税の話になります。酒税って必ず税が入りますよね、ウイスキーの場合は 2 割か 3 割になっていましたが、ビールとか焼酎とちょっと違うので、どういう税収になっていますか。今分からなかったら後で教えてください。それで税の話が出たので、ウイスキーの税収率どれくらいかなって。

○議員（三澤公雄君） ウイスキーは国税じゃないの。

○議長（千葉 隆君） あとで報告をお願いします。

ほかに質問ありませんか。

○議員（関口正博君） はい。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○議員（関口正博君） そのメリット、デメリットの部分で、ものすごく魅力のある事業、始まりとしてこれだけの大企業が集まっているって部分でその安心感は当然あると思いますが、僕はデメリットとして企業誘致の考え方なんだけれども、大企業は飛びつくのは早いけれども、撤退するのも早い。これはすごく慎重に考えないとならないところで、要は今回の事業のこれまでの先ほどの赤井さんの話し、研修牧場、サーモンとの決定的な違いってというのは、研修牧場とサーモンは地域にある程度のウハウハがあるんだけれども、今回は特殊技術なだけにウハウハがない。町長の考え方として産業を起こしてそこに人を呼び込むって考え方が中心にあると思うんだけれども、今回のことってというのは丸っきり業者さん任せでその要素も非常に強いなら、僕はデメリットを語る時にやっぱり地域の、胡散臭い言い方なんだけれども、情熱って必要だと思うんです。

そこに関わるしっかりとした人材は、僕はこの事業に関しては、ものすごく必要なんじゃないかって思うんですね、それであまり口外しないように日テレさんやSTVさん。小学館さんは繋がりがありますし、僕はなんかこの事業ってものの何か順調にことが進まなかった場合のことも引いていく速さはとんでもなく早いんだろうなって怖さがあるのかなって思うから、やっぱりしっかりと地元の体制を、短期間ではあるんだけれども、関わる人も含めてやっぱり作るっていうのは僕は反対するものではないです。すごく魅力があるしこれが成功したら、ものすごく町長らしい事業でもありますし、だからこそちゃんとした体制を整えることって必要なのかなと思いますが、その辺町長や課長はどうでしょうか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 確かに大企業はですね、会社大きいですから、今取締役も入っていますが、その取締役が大企業のうちの何よって行ったらナンバー 1 ではないので、中間くらい、その辺のと

ころが今我々が作ろうって場所はデルソーレさんの土地も建物もデルソーレさんで、あそこで30年商売をやってきたって代表もやるってことも決めて取締役会もオッケーもらっているんで、私とこれ話していいか分からないけれども、私と大河原さんの話では、我々としては商売になるよなって、リスクそんなないよなって話もしているんで、日テレさんや小学館さんが下がるってことは今のところ考えていませんが、デルソーレさんはやると決めていますので、その辺私はデルソーレさんが商売って言いながら地元で30年以上やってきているって実績があると、その辺はそう簡単に辞めるってことはないと思って進めておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 基本的に我々のほうも今回この事業を推進しながら、やはり非常に息の長い事業だって、普通の商売と違って、先ほど言ったみたいに10年間しないと結果が出ないんです。それ以降は黒字を。確かにその過程まで長いですが、そういった部分で息が長い事業ってことで、基本的に早々撤退事業っていうのが一つと、あと場所が場所にデルソーレさんの土地ってこともあって、そういった部分でデルソーレさんも非常にその部分は早期撤退は困りますから、土地の部分を一部分貸し出しとか、そういった部分を今後行われると思いますが、その子部分はしっかりと景観維持から含めて、その部分は約束事を決めて締結していきたいとおっしゃっていますし、JVってかたちで新会社設立されるので、その中に長も入っているんで、先日もデルソーレさんの社員ともお話ししたんですが、やはり息の長い事業なので、途中途中しっかりと立ち止まって、立ち止まったときに約束事、合意事、業種業種でしながら、撤退がすぐにされることを懸念していますので、そういった部分の約束事をちゃんと取り決めしながらの会社設立を図っていきたい。それはこれからいろいろ協議されてくる中身だと思いますが、やはりその部分はすぐに撤退ということがないようにいろいろこれからルール作りしながら新会社設立って話はお話されているので、その部分はしっかりと町のほうも監視しながら動いていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○議員（関口正博君） もう一点いいですか。

○議長（千葉 隆君） 関口さん。

○議員（関口正博君） 10年間にわたる長い計画だってことですよね、今課長補佐ずっと説明していただきました。いろいろとこの件に関して最初のほうから深く入り込んでいろいろ学んでいるんだと思います。ただこれ役場の体制として10年の間に担当が変わっていきますとなったときに企業と町を繋ぎとめるってものが、やっぱり弱まったり薄まったりする可能性があるわけですよね。八雲町にできることとして、せめてその部分だけは、これ民間の本当は何かそういう思いを持った方々がこの事業に参画するっていうのが一番なんですけど、なかなかそれも今までのを見ても難しいと思うので、せめて町の体制としてこの事業は大事業だと思うんです。大事業だしすごく楽しみな事業だし、そういうのってちゃんと整えたほうがいいと思いますが、その辺はどうでしょうか。課長は答えられないわな。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 結局ね、はっきりと言っているとおり、町が絡むって言うより自分は企業誘致の一環だと思っています。企業誘致であり先ほど言ったとおり、企業誘致で大会社に任せるってことはあるんです。ただこの小さい町に企業誘致って言いながらなかなか移ってくる会社はないので、町としたら補助金も出しながらやる。補助金を出すときに取締役に入らないと監視ができない。それできちんとしていていると思いますが、その辺ははっきり見ながらやると。

ただ、これからワインがきたときに、協力隊を募集してしっかりとやっている方々もいますので、これからは先ほどこれから採用する人に関しては、協力隊を募集したり町内から募集して興味のある方やそういう方がですね、勉強しながら入っていくこともあるので、その辺を含めてしっかりとやっていきたいと思っていますので、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 先ほどの牧野議員の。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長補佐。

○政策推進課長補佐（宮下洋平君） 先ほど牧野議員から酒税の関係のご質問がありましたが、アルコール度数とか種類によって変わってくるんですが、おおよそその数値で1キロリットル当たり40万円になります。それで今の試算だと3年目は会社としては2,700万円程度の酒税を払うこととなります。それで最終的には10年後2037年では7,300万円が酒税として払われますが、これは残念ながら国税となります。

あと町に入ってくる税金としては、固定資産税ですが、年間だいたい2千万円くらい入ってくるって試算をしています。

○議長（千葉 隆君） 町長の日程の都合上、11時20分までしか同席できないってことで、あれば昼からも開催しなければならないと思いますが、皆さんからまだ何かありますか。

○議員（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○議員（佐藤智子君） いろいろな経過があったと思いますが、正直また第三セクターかって思いでした。補助金じゃなくてね、貸付金とかで回収するって方法にはならないんですか。

○町長（岩村克詔君） 議長、町長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 先ほど出資金を見たら第三セクターにはなりません。

○議長（千葉 隆君） 20パーセント以下だから。

○町長（岩村克詔君） それはないってことでご理解ください。

また、貸付金は行政として、につかわないってことで何回も私も財政とも話をしていますが、行政が貸付金っていうのはないってことと、さらに先ほど言ったとおり、行政が回収できるのは固定資産税、さらにこれが事業拡大したときの経済効果は莫大にあると思っていますので、成功したらの話になりますが、回収っていうのは十分に補助金を出したとしてもできるものと考えています。

さらに昨年からふるさと納税が少しずつ上がっています。これは今メディア各社にいろんなふるさと納税のPRもやってもらっていますので、また今年今の時点でも去年の倍になってきています。これもやはりいろんな方々のふるさと納税に対する意識が少し浸透してるって我々は見ているので、この先ほど言ったウイスキーをまたふるさと納税で使っていく。さらに八雲町をPRしていくとな

ると、このメディアの方々、私はすごい働きができるのではないかと考えていますので、その辺はご理解をいただきたいと思います。

○議員（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○議員（佐藤智子君） これは町長に去ってもらっていい話ですが、事務的なことで。

そのスクリーンに建物がいくらだとかってそういうのが出ていましたが、手元にはそれがなくて、あれが重要だなんて私は思っているので、欲しいんですけども、皆さんに配っていただけますか。

○議長（千葉 隆君） あとで全員に配布してください。

○議員（三澤公雄君） もしよかったら。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） これまで町長いろんな種を蒔いてきて、それが結局繋がってるんだなってイメージを持っています。農業に最初青年舎、結果はまだ出ていませんが、今回のウイスキーでも自分のところで大麦もしくはコーンを作るとしても、そういった作ることに専門の会社にも側面支援、青年舎って大きい牧場ができたことでできていますし、サーモンもウイスキーの食材になるし、海では産業支援だし、ワインだってワインの樽かウイスキーに使えるって考えたら繋がってるんだなって。繋がっている上であえてこの資料の中でも出ている、八雲町に有する自然っていうのが一つの売り込みの材料になるので、自然環境を守るってことを今以上に町がしっかりと行っていかないと、このあと総務常任委員会でまた新幹線の残土の話が出るんですが、今遊楽部変わって大きく書いていますが、鮭は全国的なあれで溯上数が減っていることでもあります、遊楽部も溯上は減っています。でも鮎も溯上していたし、白魚だとかシシャモも上がっていたって川なのに、今アカハラすら上がらなくなってきてるって。

そういったことが新幹線だけではないですが、そういった自然環境を守るってことを訴えていかないと、こういった企業誘致にも話が違うんじゃないかってなるので、そちらのほうにもあえて今以上にウエイトを置く発言やアクションをお願いしたいと思います。

○議長（千葉 隆君） 要望ですので。

それでは町長から冒頭、今回議会に報告するのは、各社取締役会で承認を得ると同時に八雲町も資料で説明されましたように1,900万円の出資と6億円の投資をするってことの計画を含めて、今皆さんに了承を得ながら次のステップに入っていくってことで、良いつてことでよろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議長（千葉 隆君） それではこれで終わりたいと思います。

それではこれで全協を終わります。

[閉会 午前 11時25分]